

【豊かな体験活動 推進校】

自然・職業に関わる体験学習 (交流による農業体験学習を中心として)

山口県立德佐高等学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：6学級
- 生徒数：82人
- 教職員数：27人
- 活動の対象学年：2・3年生

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 少子・高齢化は我が国の最も深刻な社会問題であり、とりわけ阿東町などの中山間地域においては、その影響が顕著に出ている。しかも若者の都市地域への恒常的な転出が続いており、産業育成・行政・教育・社会福祉等、多くの課題を抱え町の活性化にマイナスとなっている。
- 本事業において、どのような方策を立てれば、若者が阿東町を魅力ある町と考え、新しい産業の担い手として地域に残り、リーダーとして統率するようになるか、様々な視点から展開を試みた。対象は山口県立德佐高等学校の生徒及び教職員が中心であり、その他近隣の小・中学校生との連携した活動も含む。キーワードは交流である。交流内容としては徳佐高等学校における、地域の小学校・中学校との連携、地域住民との交流、韓国留学生との交流などである。

③ 連絡先

- 759-1512  
山口県阿武郡阿東町徳佐中1033-3
- 電話：(083)957-0121
- FAX：(083)957-0843
- HP：<http://www.tokusa-h.ysn21.jp>
- E-mail：tokusa-h@ysn21jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 地域の小・中学生が、高校生と農業学習で交流する過程や、韓国高校生修学旅行団との交流活動など、様々な形態での交流を通じて、環境・自然保護の意識の高揚を図ることができる。また、国際交流の場を体験させることにより国境を越えた感動を共有することができる。
- 地域の様々な業種と連携しての特産品の開発、間伐材の有効利用、農業生物の特性を生かした対人サービスを学習するためのフラワーアレンジメント、地域の稀少植物の増殖と保護活動への取り組みなど、農業生物の活用及び環境保全型農業に関する基礎的な内容を学習させることができる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 中高連携による農業体験活動  
リンゴの収穫と加工体験  
(総合実習2単位時間)
- 中学生体験入学指導補助活動  
(総合実習2単位時間)
- セッコク苗の自生地復元作業  
(課題研究2単位時間)
- 中学生インターンシップ農業体験補助 (総合実習2単位時間)
- 韓国ヒョアム高等学校修学旅行団との交流及び全校ボランティア (学校行事)
- 中学生農業体験補助 (木材工芸学習) (総合実習2単位時間)
- コサージュの制作(草花2単位時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

生徒は、地域の自然、伝統文化を体験しながら、農業体験をすることにより、地域に対する理解と愛着を深めることができる。また本校生徒においては、学校の中に地域を創るという視点で、地域の自然資源の探索や小中学生への学校農場の開放を通じた連携学習により、若者が阿東町を自然豊かな魅力ある町であることを理解させ、本事業での体験学習が豊かな心を育むとともに、地域の活性化を担う人材の育成につながることを期待するものである。

18年度は、作物栽培を中心とした農業生物を活用した体験学習により多くの成果をあげることが出来たが、19年度は推進校としての研究指定最終年度としてこの事業の目的をどのように位置づけるか、様々な観点から検討し、新しい取り組みを始めるという意識ではなく、本校農業技術経営科が今まで取り組んできた様々な活動内容を農業の持つ教育力の観点から見直し、継続させるもの、さらに発展させるものを精選していくことを農業技術経営科全体で確認し、この目的を次のように設定した。

- ① 地域から必要とされる学校づくりを目指す。
- ② 体験活動をとおして自ら課題を見つけるとともに、それを解決する能力を高め、達成感・成就感を味わうようにする。
- ③ 体験学習を通して、農業に関する知識・理解を修得する。
- ④ 地域との交流により地域産業・地域自然環境を理解し、郷土愛を高めるとともに今後の職業観を育成する。

### (2) 全体の指導計画

#### ① 中学生との体験学習交流

実施学年：2・3年生

活動内容：地域の森林資源の活用として、間伐材を活用した木工工芸品の制作  
コルクボード（掲示板の制作）

活動内容：食品加工実習として、焼きプリンの製造（高等学校体験入学として）

教育課程上の位置づけ：科目「総合実習」・「食品製造」・「グリーンライフ」

期 間：2単位 2日

#### ② 自然に関わる体験活動

実施学年：3年生

活動内容：稀少植物の自生地への復元…平成15年以降継続しているセッコク自生地、  
阿東町船平山周辺の里山への復元調査を6月中旬に実施。

教育課程上の位置づけ：科目「課題研究」・「植物バイオテクノロジー」

期 間：2単位 3日

#### ③ 職業・就業に関わる体験活動

実施学年：1・2年生

活動内容：リンゴの生育観察・リンゴの収穫等、リンゴの加工体験も取り入れて、中

学生に高校生が指導し、交流学习の形態で実施。

活動内容：中学生のインターンシップ（農業体験）補助役として、技術面で中学生の指導を担当。

教育課程上の位置づけ：科目「果樹」・「総合実習」・「草花」

期 間：2単位 5日

#### ④ ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動

実施学年：3学年

活動内容：全校ボランティア（町内駅舎および道路の清掃・除草作業）

教育課程上の位置づけ：学校行事

期 間：1日

#### ⑤ 国際交流に関わる体験学習（韓国ヒョナム高校修学旅行団との交流）

実施学年：全学年

活動内容：町内中学校（2校）と徳佐高校及び韓国高校生の交流

中学校の合唱、高校のブラスバンド演奏、韓国民芸太鼓の演奏

教育課程上の位置づけ：学校行事

#### ⑥ その他のこれらが複合した体験活動 <平成20年2月実施予定を含む>

実施学年：2・3学年

活動内容：農業生物の特性を生かした生物活用（コサージュの制作）…講師招へいによる実演指導

教育課程上の位置づけ：科目「生物活用」「草花」

期 間：2単位 3日

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ① 中学生との体験学習交流

中学生の体験入学の指導教師の補助役としての立場で参加（高等学校体験入学）した。また、リハーサルによる事前指導も行った。

中学生のコミュニティスクールにおける農業体験（木工工芸）の指導教師の補助役としての立場で参加した。

#### ② 自然に関わる体験活動

平成15年以降植栽したセッコクの活着状況の調査と周囲の除草による繁殖管理作業および苗の補植を行った。

#### ③ 就業に関わる体験活動：

中学生とリンゴの収穫体験とリンゴの加工体験（リンゴジュースの製造）を二回実施した。また、別の中学校の2年生3名のインターンシップ（農業体験）を実施、いずれの活動も中学生の指導補助がスムーズに行えるよう、事前の指導を実施した。

#### ④ ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動

阿東町内駅舎の清掃・除草作業および通学路の清掃活動を実施するに当たり、事

前の調査と清掃用具の準備を行った。

⑤ 国際交流に関わる体験学習（韓国ヒョアム高校修学旅行団との交流）

町内中学校（2校）と徳佐高校及び韓国高校生の交流にあたり、交流内容について参加中学校およびヒョアム高校との事前打ち合わせを行った。また、韓国高校生は、徳地青年の家に宿泊し3日の予定で中国地方を旅行、最終日に交流を行った。なおヒョアム高校と本校は平成13年度より留学生の交流活動を実施し、これまで様々な活動を通して国境を越えた感動を共有する関係がつけられている。

⑥ その他体験活動（職業・就業に関わる学習）

農業生物の特性を生かした生物活用（コサージュの制作）…講師招へいによる実演指導のため、事前に地域の民間の指導者と連絡をとり、時間設定・花材などについて連絡調整を行った。なお、2月末日には卒業生に贈る作品の制作を行った。

(2) 活動の展開

① 中学生との体験学習交流（高等学校体験入学およびコミュニティスクール事業における農業体験）：中学生の体験入学の指導教師の補助

実施内容	教育課程上の位置づけ	活動場所	活動状況
森林資源の活用	総合実習 4時間	農業実習室	木工工芸品の制作
焼きプリンの製造	食品製造 2時間	農業実習室	サボテン植物の鉢植え

② 自然に関わる体験活動

実施内容	教育課程上の位置づけ	活動場所	活動状況
自生地調査	課題研究 4時間	自生地	船平山での調査
セッコクの補植	課題研究 2時間	自生地	現地での補植え作業

③ 職業・就業にかかわる体験活動

実施内容	教育課程上の位置づけ	活動場所	活動状況
リンゴの収穫体験	総合実習・果樹 2時間	実習園	収穫果実の説明
リンゴの加工	果樹・総合実習 2時間	食品加工	リンゴジュース加工
インターンシップ	草花・総合実習 4時間	草花温室	観葉植物の繁殖作業
インターンシップ	果樹・総合実習 4時間	実習園	リンゴの袋かけ
インターンシップ	草花・総合実習 4時間	実習園	カトレアの株分け繁殖
コサージュ制作	草花・生物活用 6時間	実習園	講師による制作指導

④ 国際交流に関わる体験活動

実施内容	教育課程上の位置づけ	活動場所	活動状況
韓国高校生との交流	学校行事 2時間	教室・校内	交流に当たっての準備
韓国高校生との交流	学校行事 4時間	体育館	発表会・昼食交流

### ⑤ボランティアに関わる体験学習

実施内容	教育課程上の位置づけ	活動場所	活動状況
町内駅舎の清掃	学校行事2時間	阿東町内	清掃用具の準備等
通学路の清掃	学校行事2時間	阿東町内	清掃ボランティア活動



収穫作業の説明



コルクボードの製作

### (3) 事後指導

リンゴの体験学習及び中学生のインターンシップの農業体験学習においては、栽培管理のポイントを系統的に体験指導させることができ、記録簿に整理させることができた。中学校においても体験学習終了後、まとめの時間を15分間設定し、事後評価の時間を十分にとられたようである。

## 3 体験活動の実施体制

### (1) 学校支援委員会

勤務先	職名	備考
阿東町教育委員会	教育長	総括的指導助言
山口県立徳佐高校	校長	行事総括
山口県立徳佐高校	教頭	連絡調整（総括）
山口県立徳佐高校	農場主任	連絡調整・指導
山口県立徳佐高校	農業科長	連絡調整・指導
山口県立徳佐高校	教諭	指導
山口県立徳佐高校	実習助手	指導

### (2) 配慮事項等

8月のインターンシップ農業体験は炎天下のハウス内での作業となった。特に脱水症、熱中症対策に留意し、健康観察を十分に、養護教諭の所在を明確にし、緊急時に対応できるよう細心の配慮を行った。

## 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

教科・科目と関連して行う場合には、各科目の評価基準により適正な評価を実施できるよう配慮している。特に興味、関心、技能、態度についてはその基準項目の中核的な事項として重視している。

## 5 活動の成果と課題

### (1) 成 果

昨年度と同様に各講座を通して、中高生のコミュニケーションが深まったことが最大の成果である。農業の持つ教育力の大きな特徴は、生きものを育てるという過程に直接触れることにより、いろいろな体験をし、発見や驚き、喜び、悲しみなど様々なことを感じることである。それによって直感力や体験的認識力を身につけることができる。こうして身に付いたものがまさに「生きる力」の基となると思われる。

アンケートの結果から、「出来るようになったこと」、「知らなかったことがわかったこと」、「植物の成長を肌で感じ取り、自然や人間の力を超えたものへの畏敬の念を深める体験をしたこと」「ボランティア活動やインターンシップにより勤労の貴さや意義を理解し、社会の中に自分を生かすことの必要性を感じたこと」などがあがっており、当初の目的が達せられたと思われる。また2ヶ年の交流を中心とした諸活動全般は対人マナーの獲得とコミュニケーション能力の育成に効果があり、今後その成果を農業専門教育のヒューマンサービス領域で発揮させてゆきたい。

自然に関わる体験活動では、昨年度同様に自然豊かな地元の良さを再発見するとともに、農業体験により生き物や農村の自然、生活にふれることによって、感性や生命・自然界の不思議さなどに対する知的好奇心を育むとともに、自然環境を大切にする心の育成につなげていこうとする感受性が生徒の感想文の随所に見られた。

### (2) 課 題

平成19年度は18年度の成果と反省を土台に学校や地域の自然・環境を見直す講座として発展させてゆくよう配慮した。冒頭でも触れたが、キーワードは交流である。本校では既にヒューマンサービス分野に関連した教育活動として、地域と連携した学校教育機能開放講座や小・中学校との交流学习が行われてきた。今後さらに交流授業や社会参加などをとおして地域資源の発掘・創造を行うことが大切である。

また、地域の活性化事業とタイアップした内容の授業への導入、地域の様々な業種と連携しての特産品の開発、間伐材の有効利用、地域の高齢者や福祉サービスに対応した教育活動など、地域の活性化につながる取り組みを今後も一層推進していくことが必要であると考えられる。なお、これらの活動は生徒が主体となり地域と関わる学習活動として展開されたことはいままでもない。

これら一連の取り組みにより、交流校で成果を共有していくためには、阿東町内の幼・小・中学校の先生方や児童・生徒をはじめとして、学識経験者、農家、農業試験場職員、町役場職員、その他の事業者と今後とも連絡を密にしていかなければならない。